

- 高齢化の進行する地区における空き地の状況を正確に把握し、その所有者の存在と意向を調査
- 調査の結果を用いて、近隣住民等とのワークショップにて、活用方法について意見交換を行い、今後の実践活動に向けた方向性を検討
- 土地の処分を希望する所有者に対しては、無償提供を含めた取引を試行

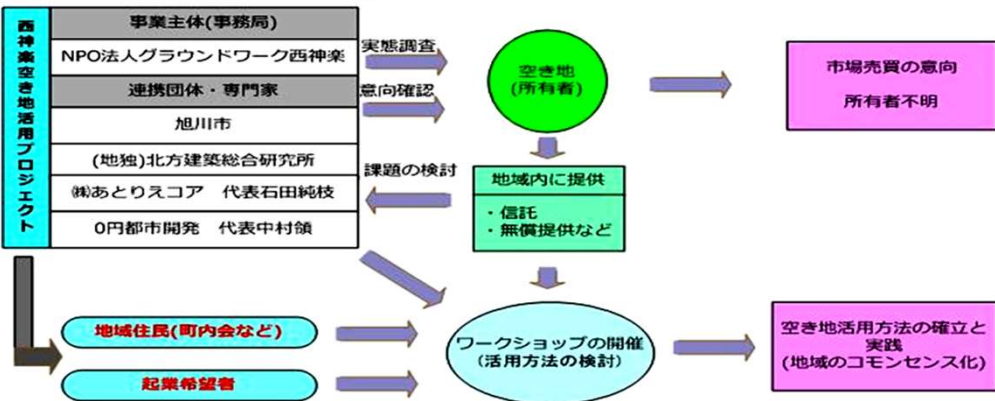
背景・課題

西神楽地区は、高齢化率50%となり人口減による過疎化が進行している。空き家・空き地は増え続け、地域の衰退が懸念される。住民の地域外への流失を食い止めるとともに新たな住民を受け入れるため、「空き地・空き家」を地域資源として活用し、地域の魅力を高めていく取組を進める。

調査目的

地域内の「空き地」の状況及び所有者の意向を把握し、空き地の課題と活用方法を検討し、地域での実践活動の合意形成を図る。本調査を通じて、地域コミュニケーションの強化を図り、住環境の向上、地域への移住促進について検討する。

事業内容・スキーム



- 空き家対策で連携してきた専門家及び行政機関(旭川市)と体制を構築
- 地域住民は市民委員会・町内会と連携を図り、事業の趣旨を理解したうえで、ワークショップに参画してもらい地域活動につなげていく

- ① 空き地の状況把握と所有者の意向調査
 - ・ 地域事情に詳しい地域住民に委託し、調査票に基づいて目視確認と聞き込みを行い、空き地の場所と所有者を確定。
 - ・ 所有者が判明後、アンケート調査を郵送及び面談で行い、処分の意向を確認。
 - ・ 調査空き地は一覧表にまとめ、市街地図に個所を落とし、写真に記録。
- ② 近隣住民等との勉強会、合意形成の取組み
 - ・ 空き地の活用方法についてワークショップにて地域住民と検討
- ③ 取組み3: 適正管理や利活用する試行的取組み
 - ・ 「空き地情報」を公的機関や民間の情報システムを活用して公開

モデル調査の成果

＜空き地の状況把握と所有者の意向調査＞

- ・ 約800戸の中央地区に、157件の空き地(宅地全体の約20%)があり、空き地が想像以上に拡大していることが判明した。
- ・ 空き地の内、所有者管理者が判明している土地は88件(約56%)であった。
- ・ 所有者に対して、土地の処分の意向について聞き取り調査を実施した結果、55件(約35%)は売却の意思を示していたが、「売れずに困っている」という話をしていた。



中央地区の空き地分布状況(一部)

＜近隣住民等との勉強会、合意形成の取組み＞

- ・ ワークショップでは、「果樹園や子供たちの遊び場としての提供」、「折り畳み式ウッドハウスの設置」、「ウォークラリーの企画」等の提案が出された。
- ・ 今後、実践に向けて空き地所有者の意向調査等を検討していく。

＜適正管理や利活用する試行的取組み＞

- ・ 土地の維持管理の困難さ、市場売買の難しさから、2件の無償提供者があった。
- ・ マスコミに地域情報を開示し、住民の関心を呼ぶ工夫も有効であった。